



R3 年度小学校英語授業づくりプロジェクト (第 1 回目研修)

私の授業実践 ⑥ ～御船町立小坂小学校 寺園 光湖 先生～

5 年 単元名「What do you want to study?」

○単元を通した学習課題

お互いのことを知るために、将来の夢に近づくためのオリジナルの時間割や学びたい教科、なりたい職業について伝え合おう！

○本時の目標 (3/8)

自分の考えた好きな時間割について尋ねたり答えたりする言い方を知り、お互いのことをよく知るために時間割をもとに考えや気持ちなどを伝え合うことができる。

単元終末以外でも言語活動を中心とした指導の充実を図る

本時は 8 時間取扱いの 3 時間目の授業。“What do you have on Monday?” “I have English.” など、時間割について尋ねたり答えたりする表現が新出の授業でした。このような単元前半での授業では、新出の語句や表現に慣れ親しむために、チャンツやゲームなどの活動を取り入れた展開をよく見かけます。

しかし、今回の寺園先生の授業では、ゲーム的活動は全くなく、教師と児童、または児童と児童によるやり取りの中で、新出表現に慣れ親しませる活動を実践されていました。

寺園先生の自評では、「中学年までは、ゲーム的活動に夢中で取り組んでいた子供たちだったが、高学年になると以前のような盛り上がりは見られなくなるため、お互いのことを知るという活動がより適していると実感した」とのこと。新出表現の練習的活動であっても、自分の本当の思いや考えを伝えるやり取りをさせながら表現に慣れるという活動の様子を見せていただきました。

高学年になると子供たちは、自分たちの行う活動そのものに意味を求めてくるようになり、ゲームなどの活動に満足できなくなってくる傾向があります。寺園先生は、日々の授業実践において、目の前の児童の様子からそのことを実感され自身の授業改善を図られています。

県学力・学習状況調査児童質問紙調査によると、英語 (の勉強) が「好き」と回答した児童は、5 年生、6 年生ともに年々減少傾向にあります。昨年度 (R2 年度) の結果では、5 年生で 69.3%、6 年生で 63.6% と 7 割を切っている現状です。4 年前 (H29 年度) の外国語活動時の割合は、5 年生で 82.8%、6 年生で 77.1% でしたので、両学年とも 4 年前に比べ 13.5 ポイント減少していることとなります。この大きな要因の一つは、教科となり「学習内容が難しいと感じる児童が増加したこと」、もう一つは、「学習内容や活動に満足していない」ということがあげられます。高学年の授業づくりでは、既に中学年で外国語活動を経験してきた子供たちであることを踏まえ、毎時間の授業においても自分の思いや考えを伝える言語活動を中心に据えた活動の工夫をお願いします。

【本時の展開案 (3/8)】

- 1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。
- 2 時間割について尋ねたり答えたりする表現を知る。
- 3 本時の学習に必要な表現について練習する。
- 4 好きな時間割を伝え合う。
- 5 学習の振り返りを行う。